

今こそ 人への投資！ 待ったなし 未来の創造！

3月4日、基幹労連は、春季取り組みと政策実現を全組織一丸となって進めるために「AP16総決起集会」を開催しました。本談話では、AP16春季取り組みに絞って現況報告の内容を記載します。

私たちは、今次取り組みにあたり、基幹労連全体の2年サイクル運動のもと、産別一体となって、2016年度・2017年度の中で2年分の賃金改善を求めていくこととし、要求額は2年で8000円を基準に、業種別部会のまとまりを重視した取り組みを進めていくとした方針を第13回中央委員会で満場一致で確認しました。

これは、業種・業態ごとの収益実態の違いも認め合い、如何にして好循環の基軸となる職場活力の発揮に向けた労働諸条件の改善を進めていくか、その目的を達えることのないように幅広い議論のもとで、各部門・業種別の事情も斟酌しながら、産別一体となった取り組みの重要性を理解し、「同じ船」に乗るという志と「結果にこだわる」との熱い決意を持った判断によるものでした。

各労使の交渉は、取りまく環境を受け、要求提出段階から厳しい交渉を余儀なくされていますが、私たちは、働く者すべての立場に立ったマクロの視点と、個別業種・業態の状況を見据えたミクロの視点からの主張を行っています。個別交渉においては、取りまく環境に対する受け止めや要求に込めた想いは互いの共通認識となりつつも、企業の収益実態から月例賃金への財源投入に対しては膠着した状態が続いています。

今次交渉において、あらためて心合わせをしておきたいことは、『経済の好循環という大きな目的を追求していくためには、働くもの全ての労働条件の底上げ・底支えと持続性が不可欠であり、その軸に月例賃金改善を据え、生活の安心・安定につなげることが消費マインドを向上させ、GDPの6割を占める個人消費の拡大につながるということ。そして、超少子高齢化、労働力人口の減少は、ものづくり産業に欠かせない人財の確保という点で大きな課題である。』このことに対処していくためには、職場の活力・現場力の発揮、そして優秀な人材確保と次なる人を育てるための人への投資が今こそ必要であり、それが企業の発展という好循環に繋がるというのが私たちの基本主張です。加えて、超少子高齢社会を見据え、子育て・介護等の課題を働くことに関わる全ての組織・個人が自らのこととして捉え、誰もが生き生きと働くことのできる‘働き方改革’も併せて進めていく取り組みが重要であるということです。

「今こそ！人への投資 待ったなし！未来の創造」というスローガンは、まさにその想いを込めたものなのです。

厳しい交渉は続くでしょうが、職場の努力を真摯に評価してきた労使関係が、次なる職場活力を生み、これまでの幾多の困難をも乗り越えてきた原動力であったことは歴史が教えています。

粘り強く、働く仲間の熱い思いを背に、「職場の生き活き無くして企業の発展なし、企業の発展なくして、私たちの雇用と生活の安定・安心なし」、職場原点の好循環を追求すべく、基幹労連一丸となって形ある結果を引き出しましょう。

ご安全に

2016年3月7日
日本基幹産業労働組合連合会
事務局長 神田 健一